

# 成長儀礼（誕生から成人まで）

現代に至るまで、人の一生において、子供が無事に成長するということは特別なこととしてとらえられてきました。

「七つ前は神の内」という言葉があります。これは、数え七つ前の幼児はいまだ神の世界に属しており、人間世界の存在としてはみなされないという考え方に基づいた言葉であるとされています。子供が無事に成長することが現代以上に特別なことであった時代を印象付ける言葉です。

ここでは、人の一生の中で、誕生から成人に至るまでの人間としての成長過程における主な通過儀礼にまつわる史料を紹介します。子供の成長を特別なこととしてとらえ、無事な成長を祝った先人たちの「思い」に触れていただけだと思います。